

岡山市について

人口：約 720,000人、面積：790km²

多くの市民により、自然と調和した暮らしの中で受け継がれてきた里地・里山・里海に、多様な野生生物の生息地が多く残されている。

- 中四国の交通結節点
- 高い都市機能の集積
- 医療・介護の集積
- 岡山固有のテーマ性の高い歴史・文化資産の保有
- 第3次産業中心の産業構造
- 活発な地域活動、ESDの取組

岡山市市民協働局SDGs・ESD推進課 課長 小川卓志
岡山市立京山公民館 館長 内藤元久

岡山市の持続可能な地域づくりにおける課題

- 2020年をピークに人口が減少に転じ、高齢化が進行
- 若い世代の地域外への流出、地域経済の活力の低下
- 地域活動の担い手の減少、地域の愛着心の低下
- 市街地の拡散による中心市街地の活力の低下
- 中心部、周辺部を通じ公共交通が衰退
- 里山・里地の環境を支えてきた農業就業人口の減少、高齢化に伴う自然環境の悪化、生物多様性の喪失 等



- 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興、活力ある農業の振興
- 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進
- 地域の活力を担う人材の育成・確保
- コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり
- 地域連携の推進、地域の課題解決のための持続可能な取組 等

地方創生の方向性(岡山市 まち・ひと・しごと創生総合戦略 より)

岡山市SDGs未来都市計画（2021～2023）案の概要

経済

（取組）

- ・ 産業の創出・育成
- ・ 新たな雇用対策
- ・ 新しい人の流れの創出
 - 創業支援、企業誘致促進
 - 移住・定住の促進
 - 活力ある農業の振興



社会

（取組）

- ・ 市民の健康づくり
- ・ 生涯現役社会づくり
- ・ 女性活躍、男女共同参画
 - 健康寿命の延伸
 - 生涯活躍就労支援
 - 女性が輝くまちづくり推進



環境

（取組）

- ・ 環境にやさしいまちづくり
- ・ 低炭素型で循環型社会の実現
- ・ ESDの推進
 - 人と環境にやさしい交通ネットワーク
 - 地球温暖化対策、生物多様性の保全
 - ごみの減量化、リサイクルの推進
 - 市民活動の人材育成



SDGs 健康好循環プロジェクト

- SIBを活用したヘルスケア推進事業
(おかやまケンコー大作戦)
- AIを活用した健康見える化事業
- SIBを活用した生涯活躍就労支援事業



主なSDGs推進事業の実施状況 (SDGs・ESD推進課)

令和2年度

◆SDGs研修

- ・岡山連携中枢都市圏ESD研修 (R2.9.3 早島町、R2.11.6備前市)
(主な内容) 「SDGsカードゲーム」&ワークショップ

◆SDGsの学び合い

- ・おかやまSDGsアワード2020 & SDGsフォーラム in 岡山
(R2.12.19 岡山コンベンションセンター)
産官学民が連携してSDGsの優良事例を顕彰。岡山県内の6団体が受賞
おかやまSDGsアワード受賞団体の取組発表、パネルディスカッション



◆SDGs普及啓発、情報発信

- ・未来わくわくSDGsフェスタ～お買い物ものからはじめよう～
(R2.8.20~21 イオンモール岡山)
日々の暮らしとSDGsの関わりを学ぶ普及啓発イベントを開催
- ・ESDカフェ×SDGsシリーズ
(毎月第3木曜日開催) ESDカフェは通算113回開催
- ・「おかやまESDなび」ホームページでSDGs活動の発信



主なSDGs関連事業(環境に関する事業)

◆世界首長誓約に署名

- ・持続可能なエネルギーの推進、温室効果ガス排出量削減、気候変動の影響などに適応し、レジリエント(強靱)な地域づくりに取り組む自治体として、世界首長誓約に署名(R2.7.29)

◆温室効果ガス排出等の削減に向けた共同宣言

- ・指定都市市長会議まちづくり・産業・環境部会(部会長:大森市長)において、2050年までの脱炭素化社会を目指した温室効果ガス排出等の削減に向けた連携宣言を行った(R2.11.5)
- ・岡山連携中枢都市圏の13広域市町に対しても、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロの共同宣言を呼びかけ

◆建て替えを行う岡山市役所本庁舎を再生可能エネルギー100%使用することを発表

- ・2026年度完成予定の本庁舎電力を、広域ごみ処理施設で発電した電力で賄う
- ・エネルギー消費量を削減するZEB Readyの実現を目指す

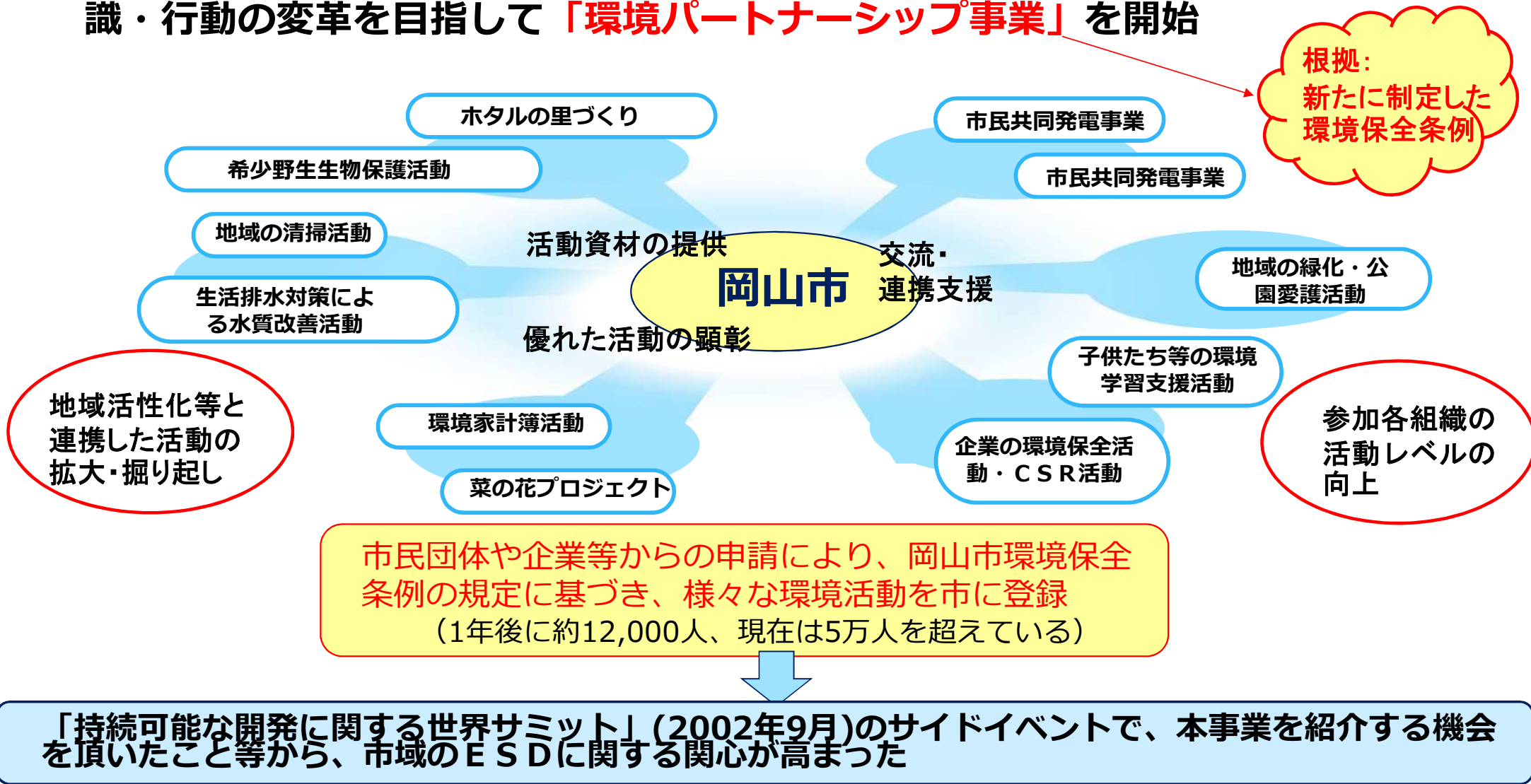
◆SDGs守ろう!海・川プロジェクト(R3事業)

- ・当課と環境局が協力し、海ごみ(特にプラスチックごみ)となる川ごみを中心に、岡山連携中枢都市圏参加市町と共に行う
- ・フォーラム、パネル展の開催

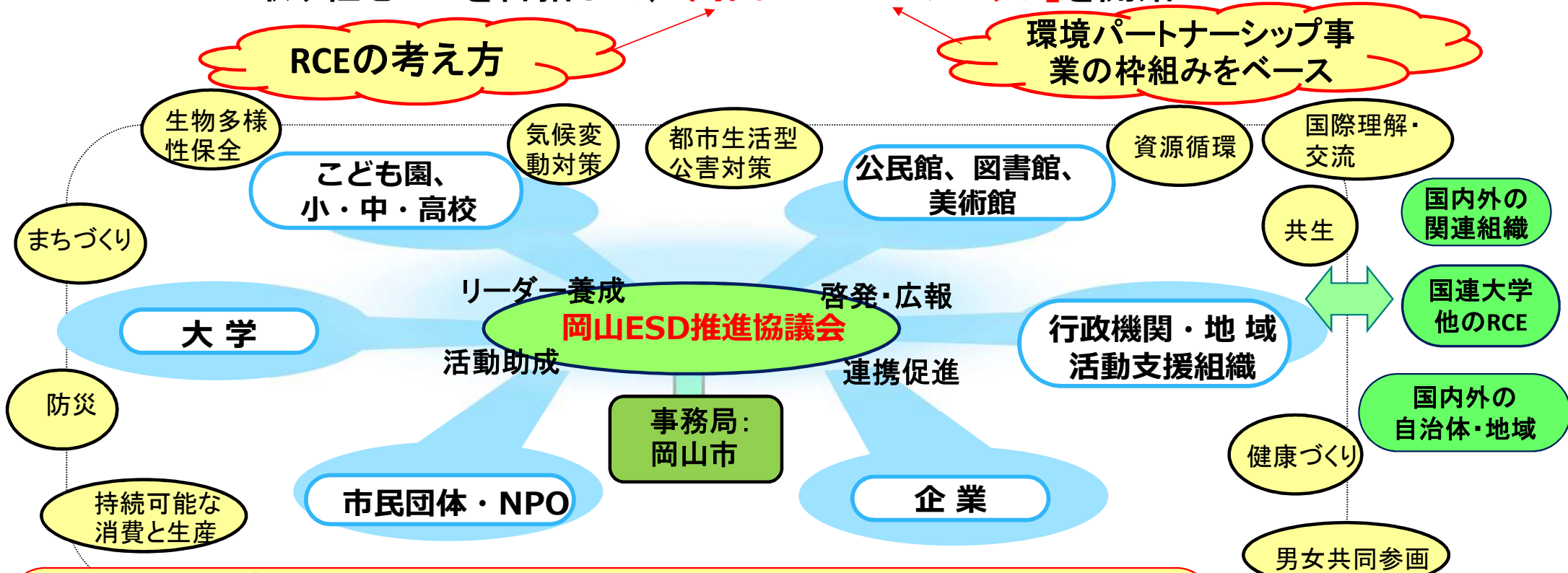


岡山市におけるESDの取組について

2001年、様々な環境活動間の連携を図ることにより、市域全体の環境に係る意識・行動の変革を目指して「環境パートナーシップ事業」を開始



2005年、市域全体で様々な組織が連携しながら、それぞれの特性に応じたESDに取り組むことを目指して、「**岡山ESDプロジェクト**」を開始



岡山ESDプロジェクトの特徴(岡山モデル)

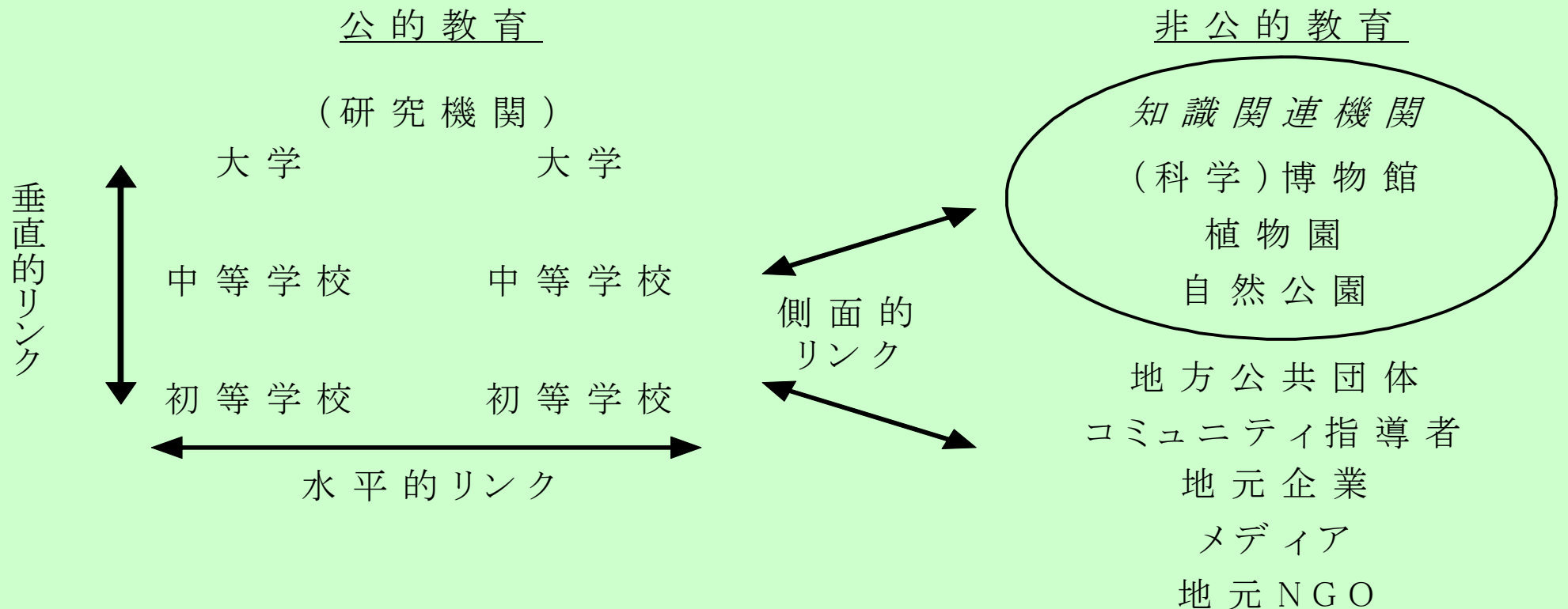
- (1) 地域を拠点とした市域全体での取組～公民館、1人1人1校を核に推進～
- (2) あらゆる世代、多様な組織が参加
- (3) 専従コーディネーターや大学による継続的な支援
- (4) 行政による継続した事務局運営

活動団体

2005年 19
→2020年末現在 322

岡山ESDプロジェクトの枠組みは、国連大学が提唱するRCEの考え方に基づき、環境パートナーシップ事業をベースとして構築

持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点（RCE）



(国連大学資料より引用)

岡山市におけるESDの経緯

- 2005 岡山ESD推進協議会設置 岡山ESDプロジェクト開始
国連大学が、岡山市域をRCE(ESD地域拠点)の一つに認定(世界で最初)
(環境保全課に専任コーディネーター配置)
- 2007 岡山市の公民館の事業方針に「ESDの推進」を規定
岡山大学と岡山市が「ESDに関する協定」締結
- 2010 岡山ESDプロジェクトが日本計画行政学会計画賞受賞
- 2013 岡山市教育振興基本計画にESDを位置づけ
- 2014 ESDに関するユネスコ世界会議関連会合開催(97カ国、約3,000人参加)
岡山市ESD推進条例施行
- 2016 岡山ESDプロジェクトが「ユネスコ/日本ESD賞」受賞
- 2017 岡山市がESDを柱に取り組んでいる生涯学習活動について、「ユネスコ学習都市賞」を受賞
- 2018 「ESDを活用した市民活動の活性化」等の提案により、国が岡山市をSDGs未来都市に選定

岡山市におけるESDの進め方

1. 岡山ESD推進協議会に係る事業

- プロジェクトに参加する各組織・団体が、それぞれ既存の資源を活用する。
- 協議会活動については、市が事務局業務や協議会活動自体に係るすべての経費を負担する。
 - (1) 財政基盤の弱い市民団体等が新たにESD活動を強化するための経費の一部助成
 - (2) ESD関連活動に関する各種助成制度の紹介
 - (3) 必要となる知識や技術、人材を有する組織等の紹介、活動間の連携支援 等

2. 岡山市ESD関連事業

- 既存の市自身の幅広い事務事業について、ESD推進資源として見直し強化を図る。
 - (1) ユネスコスクール活動や公民館活動、海外交流、市民協働を促進する事業
 - (2) 環境保全活動の促進や子育て・健康づくりの支援、コミュニティサイクルや公共交通機関の利用促進事業
 - (3) 自然や国際交流、防災、文化等をテーマとした各種学習事業 等

岡山ESDプロジェクトの取組状況について

岡山ESDプロジェクトは参加している各組織により、それぞれ主体的に取組まれている。そのうち、協議会が直接実施した事業及び、岡山市の関係各部署が実施している事業の概要については以下の通り。(一部抜粋)

活動分類	岡山ESD推進協議会が直接実施した事業	岡山市役所のESD関連事業
ESDへの包括的な取組	○様々な組織が行うESD関連活動の一部助成等による支援	○関係各部署のESD関連事業・施策について調整、公表
ESDを実践する教育者の育成	○ESDコーディネーター研修を実施 ○岡山連携都市圏でESD研修を実施	○地域活動リーダーの養成 ○教員対象のESD研修の実施
ESDへの若者の参加支援	○ユネスコスクール活動の支援 ○ESD学生インターン事業の実施	○小中学生を対象とした各種自然体験事業の実施
ESDへの地域コミュニティの参加促進	○ESD活動団体発表交流会の開催 ○ESD岡山アワードの開催 ○ESDカフェの連続開催、大型商業施設でのイベント開催 ○ESDウィーク事業の実施	○ESD・市民協働推進センターの運営 ○ESDに係るウェブサイトの構築 ○身近な野生生物をシンボルとした環境保全活動の支援 ○倫理的消費の普及・啓発

岡山ESDプロジェクト基本構想の指標に係る達成状況の概要

基本構想には、重点取組項目ごとに、主にイベント開催数や参加組織数等に係る16に項目の指標を設定

そのうち、2019年の最終目標が達成することが難しい項目は約2割で、残りの8割は、中間目標年時点で達成しているか、最終年で達成が見込まれる状況

指標	2017年	2017年 目標値	最終年 目標値	見込
岡山ESD推進協議会登録団体数	275団体	260団体	300団体	B
ESDコーディネーターの人数	169人	160人	200人	B
学校と公民館が連携した学習・実践活動	11中学校区	10中学校区	37中学校区	B
ESDアワード応募団体数(累計)	233団体	60団体	100団体	A
ESDの認知度(%)	24.8 %	20%	30%	C
国内外のESD活動団体との新たな相互交流数	48件	5件	15件	A

※A:既に達成、B:ほぼ達成できると見込まれる、C:達成は難しい

(等、全16項目)

岡山ESDプロジェクトに関連し、広域的な顕彰を受けた活動・事業

事業名	授賞名(授賞年)
岡山市藤田地域のESD活動	RCEアワード(2015年)
京山地区ESDプロジェクト	ESD岡山アワード岡山地域賞(2015年)
岡山ESDプロジェクト	ユネスコ/日本ESD賞(2016年)
岡山市生きものの里プロジェクト	RCEアワード(2016年)
地域で魅力的に生きる大人と将来を模索する若者の交流事業だっぴ	ESD岡山アワード岡山地域賞(2016年)
岡山市の生涯学習等に係る取組	ユネスコ学習都市賞(2017年)
グローバル人材の育成&ESD思想の普及と定着	ESD岡山アワード岡山地域賞(2017年)
TERAKOYA Project	ESD岡山アワード岡山地域賞(2017年)
おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト	UNDB推奨連携事業に認定(2018年)
山陽女子中学・高等学校 地歴部の取組(海ごみの処理・啓発)	ESD岡山アワード岡山地域賞(2018年)
アフリカと日本をわくわくで繋ぐアップサイクル商品 フェアトレード事業	ESD岡山アワード岡山地域賞(2018年)

成果（「岡山ESDプロジェクト2015-2019の取組状況に係るとりまとめ結果より」）

1. 活動の広がり・深まりが進み、持続可能なまちづくりに繋がっています

- 協議会参加組織では、プロジェクト全体の成果について全体の8割が肯定的な評価であった。
- 小中各校や公民館では、児童生徒や公民館利用者また、教員・職員等の意識や行動の変容に繋がっている。
- 活動分野について、プロジェクト開始当初に比べ様々な分野に広がっている。
- 子育てや独り暮らしの高齢者、外国人居住者の暮らしのサポート活動、野生生物の保護活動等の持続可能なまちづくりに繋がっている事例が生まれている。



公民館のESD活動による住民の変容(主な項目)

項目	割合(%)
地域に対する愛着心が高まった	69
地域に貢献したいという気持ちを持ち、行動する住民が増えた	50
地域の人同士の繋がりや信頼関係が豊かになった	38
地域の持続可能性を高めるために何ができるかを考え、行動する住民が増えた	31
ESD活動を通じて育んだ価値観のもとに、他の人伝えたり、人や活動をつなぐ役割を果たす人がでてきた	31

協議会参加組織の活動分野の内訳

	環境	社会	経済	分野特定せず	その他
2017年度末	33	29	9	20	10
2005年度末	95	5	0	0	0

2. 広域的な交流が地域内外のESDの推進、地域活性化にもつながっています

- プロジェクトに係る様々な活動や組織が、ESD関連の広域的な顕彰・表彰を受けている。また、市内でESD関連国際会議が継続して開催されている。
- 国内外の関係者との交流が、地域活動における新たな気づきや、活動自体の深まり・広がりに繋がっている。
- ESD関連会議が一つの契機となって、イスラム圏の訪問者への対応するまちづくりが地域活性化にも繋がっている。
- ESD岡山アワードの開催等により、広域的なESD推進にも貢献している。



課題・今後に向けて

- 協議会参加組織の岡山ESDプロジェクト全体への貢献意識はあまり高くない
- プロジェクト参加組織では、一定の成果があると認識している一方で、地域全体の意識や行動の変容はみられていない。
- 今後のプロジェクトの推進には、ESDが持続可能な地域づくりに及ぼす効果を検証できる指標の導入や地域全体で取り組む具体的なテーマ設定の検討が必要である。
- また、協議会自体の活動を継続・発展させていくためには、事務局と、教育関係組織や中間支援機能を持つ組織等との調整・連携強化が必要である。

協議会参加団体の岡山ESDプロジェクトの成果に関する認識

項目	割合(%)
地域全体で見ると、プロジェクトの成果はあまり感じられない	6
少しずつ成果が上がっているように感じている	64
成果が上がっている	12
その他	18

ESDはSDGsの全ての目標達成の鍵

岡山市では、ESDを一層推進し、地域特性に応じたSDGsに取り組みることにより、持続可能な地域づくりを推進していく方針です。



持続可能な消費と生産・自然の恵みをテーマとしたイベントの開催

(参考) 具体的活動例

1. 高島地区の取組

アユモドキの保護をテーマに子どもを通して広がったESD活動・地域の学びあいにより、農業の継続と生態系保全に関し、長い間、対立が続いていた関係者間で、水路の構造や管理方法、保護活動等に関し、保護と開発が両立する新たなルールづくりが進んでいる。



2. おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト

市民と企業、研究者、行政等が連携して、開発により失われる田んぼに生息するダルマガエルの引っ越し、引っ越し先の田んぼの確保・雑草管理等に取り組んでいる。また、化学肥料不使用等の特別栽培米の販売し、収益金を環境保全活動に等に活用している。



3. 市民共同発電所

幅広い市民からの募金や出資等により、市有施設等への自然エネルギー設備の設置と合わせたESD・環境教育活動に取り組んでいる。岡山市は、市有施設の使用料の減免等により活動を支援している。



4. 藤田地区の取組

農業が大変盛んな一方、水環境の悪化や後継者不足が課題となっている地域で、地域住民と小・中・高校、公民館、大学、自治体が連携して、農業を共通テーマとしたESDに取り組み、地域への愛着心の高まり、広域的な社会貢献活動や地域の環境保全活動等に繋がっている。



5. 民間の産業廃棄物処理施設(藤クリーン株式会社)

産業廃棄物の中間処理施設内に、案内板や見学路、処理施設内で生産するリサイクル品を利用したビオトープ、セラピーガーデン等を設置し、環境教育の場として公開している。また、岡山市と災害時の廃棄物処理や避難場所の提供等に係る協定を締結している。



6. 瀬戸内海での取組

海ごみの回収活動や上流部との連携による環境学習に取り組んでいるNPOや高校、アマモ再生に取り組んでいる小学校、研究活動を兼ねて河口部の干潟から源流部の環境学習に取り組んでいる大学などが、互いに交流・連携しながら里海づくりを進めている。

